

魔法のダイアリープロジェクト 活動報告書

報告者氏名：長谷川雅美

所属：太田市立沢野小学校

記録日：平成31年2月4日

キーワード：読み書きが困難

【対象児の情報】

(1) 学年、年齢など 5年生 11歳 男子

(2) 障害名 読み書きが困難 吃音 発音不明瞭

(3) 障害と困難の内容

① 障がい

- ・出生時、低体重で生まれる（780グラム）。
- ・平成30年5月に行った心理検査（WISC-IV）は、平均より少し低い値である。
- ・平成30年6月に行った視知覚の検査ベンダーゲシュタルトの結果は、合計得点3点（10:0～10:5 平均1.6+1.18）であり、大きな遅れ、問題は認められないと報告を受けている。
- ・吃音とカ行およびサ行の発音に不明瞭さがあるため、「ことばの教室」に週1時間通級している。

② 困難の内容

- ・集中を持続することが難しく、1単位の授業では10分くらいすると、教科書を曲げたり、鉛筆で遊んだりし始める。
- ・国語や算数の授業中は、「本を開きます」「ノートを用意します」などの1指示1動作であればできることもある。
- ・社会、図工では、絵を描いたり、図にまとめたりの指示をしてもできないことの方が多い。
- ・字形が整わない。正確に書くことも難しい。
- ・黒板を写すことが苦手である。また、ノートを取り始めても、3行程度でやめてしまうことが多い。
- ・不器用さが見られ、道具（筆、定規、リコーダー、鍵盤ハーモニカ、ボール、短縄など）を使うことが苦手である。
- ・また、協応運動や文字の大きさや形をコントロールするなどの細かい作業は難しい。
- ・語彙が少なく、文字や言葉からイメージすることが難しいため、文章の読み取りや日常における対人関係で困難さが見られる。
- ・絵を写したり、想像して描いたりすることは難しい。

【活動目的】

(1) 当初の目的とねらい

① 意欲的に授業に参加させる。

- ・ 家庭学習のやり方を身に付けさせる。

- ・ 授業の学習内容を補う方法を身に付けさせる。

② 書きの苦手さを補う方法を広げる。

- ・ ノートテイクの方法や量を模索する。

(2) 活動を実施した期間 平成30年4月10日（月）から平成31年1月31日（木）

(3) 活動の実施者 長谷川雅美

(4) 実施者と対象児との関係 通常学級担任

【活動内容と対象児の変化】

◆ 対象児の事前の状況

① 聞くこと

- ・ 一斉指導で1つ以上の指示は聞き取れないことが多い。
- ・ 指示を自分なりに理解することも多く、他の人と行動がずれる。
- ・ 本を読んでいるときは、なかなか他の人の話に耳を傾けられない。

② 書くこと

- ・ 取り組みを始めるが、集中が持続しない。
- ・ 文字が絵のように見えているようで、ノートを書くことはもとより、漢字を正確に書くことができない。
- ・ 作文などはなかなか書けない。
- ・ 12mm方眼のマスの中に文字を納めて書くことができない。
- ・ 板書を取るのに苦手意識を持ち、4年生までは、ノートを写さないことがほとんどである。
- ・ 自分の考えや思いがあっても、言葉で表現することが苦手である。
- ・ 作文をすると3行も書けない。
- ・ 自分の感情を表す言葉も少ないため、「うれしい」「おもしろい」が多く見られる。

③ 読むこと

- ・文字を読むことはすらすらできるが、文字からイメージを想像することができないため、文章の内容を理解することは難しい。
- ・物語文などの内容の特に把握は難しい。特に登場人物の心情を読み取ることは難しい。
- ・国語のテストでは、「いつ、だれが、どうした」などの問いについては答えられる。
- ・社会では、表やグラフから情報を読み取れない。

④ 話すこと（コミュニケーションをとることも含む）

- ・語彙が少ない。
- ・論理的に話したり、順番に話したりすることができない。
- ・休み時間は一人で本を読んで過ごすことが多い。
- ・自分の興味がある話題を一方向的に話すため、双方向の対話は難しい。
- ・自分が話したいことがあると、相手の都合にかかわらず、話かけ続ける。

⑤ 計算すること

- ・筆算の桁をそろえて書いたり、計算したりすることが難しい。
- ・記憶が保持できず、計算を暗算で行うことができない。
- ・わり算は難しい。小数の計算は桁が揃わないためできない。
- ・文章題は、足し算、引き算、かけ算、わり算の違いを理解し解くことはできない。

⑥ 推論すること

- ・図画工作科で絵を描いたり、理科や社会の観察レポート、総合的な学習の時間でのまとめなど、絵を描いてまとめたりすることは、非常に苦手である。
- ・既習事項を想起して学習をすすめることは苦手である。

⑦ その他

- ・音楽のリコーダーや鍵盤ハーモニカはできない。
- ・算数で三角形や平行線、垂直線を書くなど道具を使うのが難しい。
- ・家庭では一人で学習を進めることが難しい。

◆ 活動の具体的な内容

① 意欲的に授業に参加させる。

ア 家庭学習のやり方を身につけさせる。



- ・分からない言葉の意味を調べるために → **例解学習 国語辞典**
- ・新出漢字や分からない漢字の書き順を調べたり、漢字を捉えやすくしたりするために → **かん字ドリル シリーズ**
- ・家庭での漢字学習のために → **かん字ドリル シリーズ**
- ・ノートテイクなどの支えるために → **カメラ機能**
- ・音やイントネーションの正確さを身に付けるために → **デイジー教科書**
- ・社会や理科の学習のイメージをつかむために → **NHK for School**

イ 授業の学習内容を補う方法を身に付けさせる。



- ・イメージをしやすくするために → **画像検索 動画検索 カメラ機能**
- ・分からない言葉の意味を調べるために → **例解学習 国語辞典**

② 書きの苦手さを補う方法を広げる。

ア ノートテイクの方法や量を模索する。



- ・ノートテイクをしやすくするために → **手書き入力 五十音入力**
- ・言いたいことなどを整理しやすくするために → **ロイロノート**
- ・ノートテイクなどの負担を軽くするために → **カメラ機能 ロイロノート タッチアンドリード**

◆ 対象児の事後の変化

取り組み：家庭学習のやり方を身につけさせる。

① 小5 漢字ドリル

本校では、家庭学習として、「音読・漢字・プリント・自主学習」を毎日行うことを勧めている。4月当初、本児もなんとかやろうとしているようであったが、毎日行うことはもちろん、書いてくる文字も乱雑になってきた。そこで、5月の連休明けに、ノートに書く漢字練習ではなく、「かん字ドリル シ



リーズ」を提案したところ、楽しそうに取り組むようになった。毎日、音読と漢字練習5つ、プリントを家庭学習としてやってくるようになった。

また、夏休みの漢字練習も「かん字ドリル シリーズ」を使って行うこととした。書くことへの苦手意識が「手でなぞる」という作業で多少薄れ、漢字スキルと違い、始点、終点がアニメで分かることでやりやすかったようだ。

合わせて、5月中旬より、教室においても「小5漢字ドリル」を、一斉指導での漢字学習の時間に取り入れて行っている。学級全員が楽しんでいることができる。5回漢字を書く練習は、当番制で行っており、本児も事前に練習した文字を、みんなの前で書くことができる。

【漢字ドリルの順に学級のテレビで写しながら、学習を進めている様子】

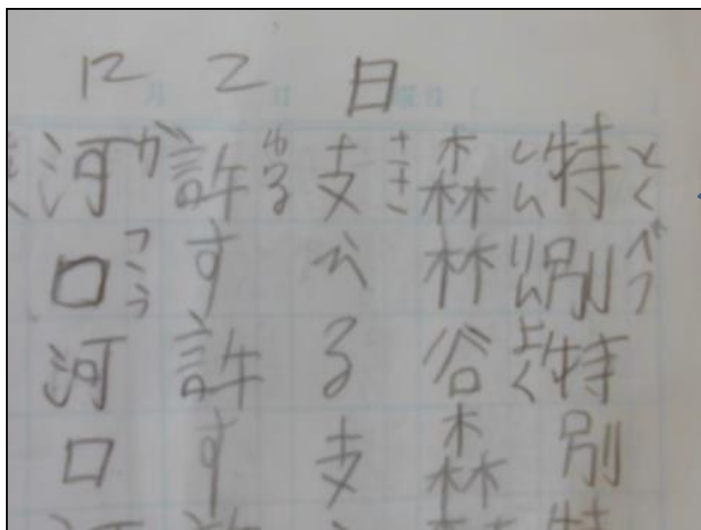


本児：「今日は、自分かあ。」
「テレビは遅いからね。」
友達：「これいいよね。〇〇は、いつもやっているの?」「字、きれいだね。」



9月になり漢字の定着のために、毎週金曜日に行う漢字テストを行うこととした。そうしたところ、なかなか定着していないことがわかった。定着しない要因として、10問という出題数が多いことや出題範囲が広いことが考えられたため、漢字テストのやり方を工夫することとした。5問にしたこと、問題を予告したことで、家庭学習がやりやすくなったようだ。各月の「音読・漢字・プリント・自主学習」の記録を見ると、ほとんど毎日、行うことができる。そして、11月の下旬から、漢字ノートに練習をし始めるようになった。タブレットで学習したことが、自分なりにノートにも練習することにもつながったようだった。

【ノートでも漢字練習】



「ノートにも書けると思ったから」

12月2日のノート。

②例解学習 国語辞典

4月の宿題で「意味調べ」を出したところ、紙の国語辞典では時間ばかりかかってしまっているとの相談を、家庭から受けた。そこで、「例解学習 国語辞典」を使って調べるようにしたところ、自分なりのペースではあるが、スムーズに進むようになった。

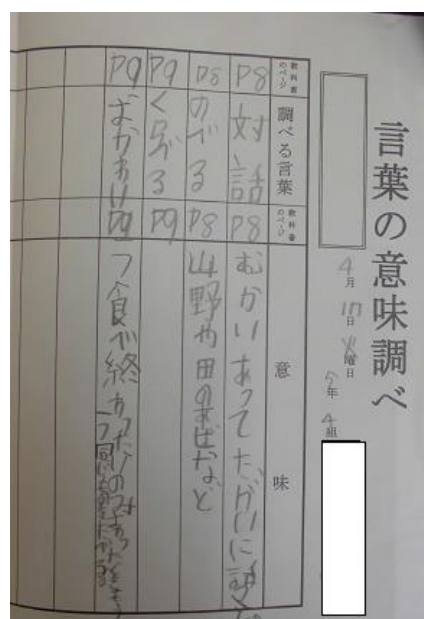


4月の意味調べでは、45分間に4つの語句を調べることができた。9月の意味調べでは、45分間に6つの語句を調べられるようになった。1月の2週目の意味調べでは、45分間に8つから、10この語句を調べられるようになってきた。

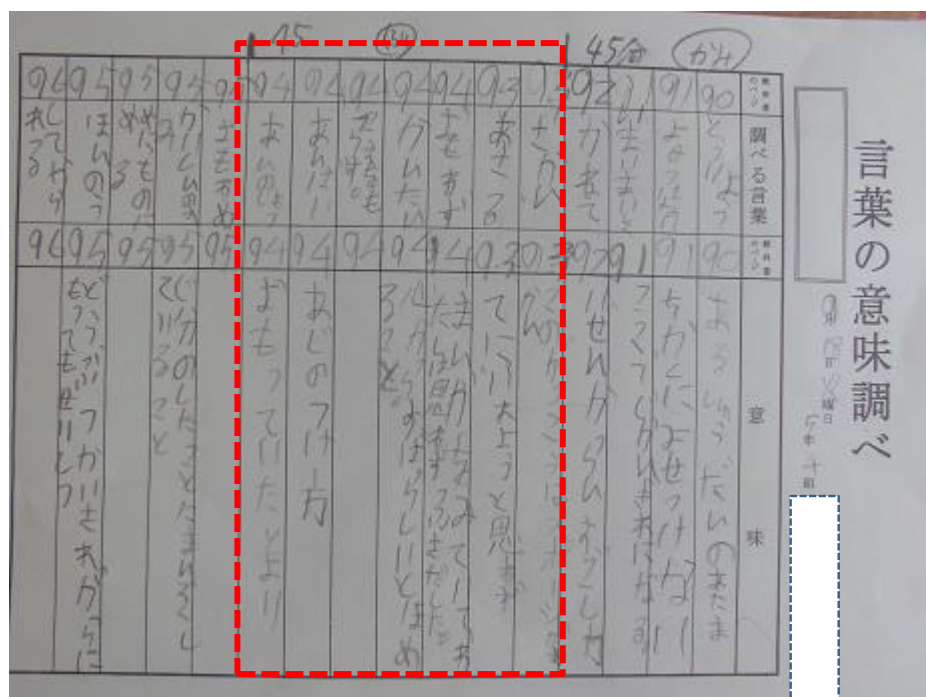
しかし、調べることは、スムーズになったもの、プリントに書き込む文字を見ると、本児が書くことに苦戦しているように感じた。そこで、ノートに書くことをせず、しらべたものを写真にとり、ノートに貼って代用することとした。

また、3学期の作文の宿題では、「馬が合う」の意味を自分で調べて、作文を書いてきた。保護者によると、「例解学習 国語辞典」で調べてから、作文にしたとのことであった。わからない言葉を調べることを、必要に応じてできるようになってきたと感じる。

【4月の意味調べの様子】



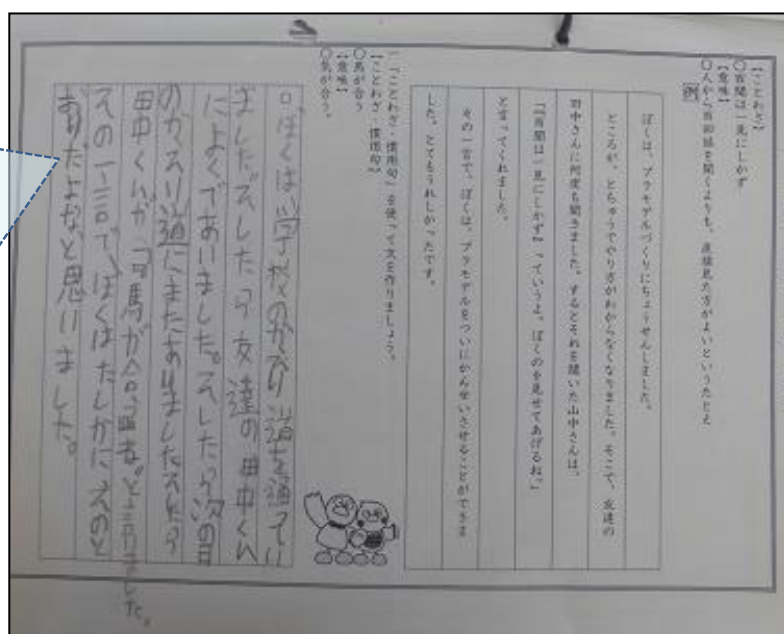
【9月の意味調べの様子】



【「馬が合う」の作文】

(前略)

田中君が、「馬が合うな。」と言いました。その一言で、ぼくは、たしかに「そのとおりだよな。」と思いました。



③ NHK for School

1 学期は、社会科や理科では、席に座っているものの、意欲的に授業に参加していない様子が見え、うかがえた。

特に社会科では、地域の学習が始まり、本児が苦手とする、学習課題にそって調べたり、まとめたりすることも増えた。当然、教科書の文章からでは、イメージがしづらいようで、授業で何をやってらよいか、わからないという表情が見られた。そこで、授業で学習する地域について、

あらかじめ「NHK for School」の番組を視聴させた。そうしたところ、授業中もそこで見た画像を検索し、使う姿が見られた。また、理科の教科担当教員には、授業中に、学級全員に「NHK for School」を視聴させるようお願いした。

2学期も、社会科や理科において同様に学習を進めた。

社会科では、「NHK for School」の番組を単元の最初に視聴させ、学習を進めた。また、12月の国語でも「NHK for School」の番組「おはなしのくに」の「雪わたり」を視聴してから、教科書での学習を進めた。これは長い教材であるため、視聴させることで文章全体のイメージを捉えやすくなり、理解が進んだ。

【「雪わたり」 視聴した映像】



④ デイジー教科書

4月より、家庭学習である「音読・漢字・プリント・自主学習」の音読を「デイジー教科書」で行っている。本児が「ことばの教室」に通っていることもあり、音やイントネーションの正確さを身に付けるために取り入れた。5月の家庭訪問での保護者の話によると、今までは音読をやりたがらないことが多かったが、デイジー教科書になったとたん、家に帰ると自分でスイッチを入れて行うことができているということだ。音やイントネーションの正確さが向上したかということについては、まだまだ課題が残っていると感じる。しかし、家庭学習において、保護者が促さなくても、自分でスイッチをいれて音読を行う姿勢が身に付いてきているということは、大きな成長である。

9月から、国語の授業ではデイジー教科書を使わせた。

「大造じいさんとがん」では、「え場」の読み方を何度も繰り返し聞いたり、言ったりする姿が見られた。また、「なぜ、大造じいさんは残雪をにがしたのか」を考える授業では、デイジー教科書を使って、繰り返し聞きながら、内容を確認する姿が見られた。

12月に学習した「雪わたり」では、毎日、家庭学習で使用した。

取り組み：授業の学習内容を補う方法を身に付ける。

① 検索機能・画像検索

【社会の授業で】

4月の社会の授業では、地域の特徴を学ぶ中で「輪中」などを調べた。教科書だけでは理解が進まず、イメージもしづらいようだった。そのため、教室にあるタブレットを使って、分からない言葉などについて画像検索画できるように、その方法を教えた。タブレットを使って行う画像検索は、他の児童も自由に使えるようにした。授業では、検索した画像を使って学習を進めることで、本児の理解も進んだようだった。学級でも、本児が検索したものを使って授業を進めた。



また、7月から、図工では、「よだかの星」の読書感想画に取り組んだ。自分で「よだか」を調べ、画像を検索し、その画像を手元に置きながら、本人なりに下書きを書くことができた。自分から、調べる道具としてタブレットを手元に置き、検索をしたことは、本児の成長でもあった。

9月になって色をぬる段階になると、「水彩画の描き方」と自分から検索をし、参考にしながら色を塗り仕上げることができた。



【図工の授業で】

本児：「よだかってなんだ」「よだか？」「たかの仲間かな？」

教師：「調べてみれば。わかるかもね。」「でも、イラストではなくて、画像にしてね。」

本児：「これかな。」「これかいていい？」

教師：「自分で気に入ったものなら、いいんじゃない。」



国語の「平家物語」の学習では、「琵琶」「琵琶法師」などを検索し、イメージをふくらませてから授業に取り組んだ。

取り組み：ノートテイクの方法や量を模索する。

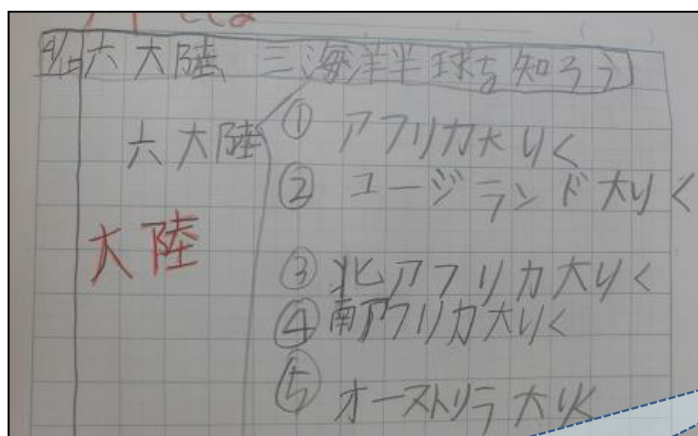
① 手書き入力 五十音入力

4月当初、本児のノートテイクの様子を見ていると、升目にそって書くことや板書を正確に写すことが難しいことがわかった。昨年度までは、ほとんどの教科でノートを取らないこともあったそうだ。

社会では、板書を写すのに時間がかかったり、升目にあわせて書いたりすることが難しいことがわかった。また、資料にそってまとめを書くことにも苦戦しており、ノートを読み返すと、何が書いてあるのかわからないことが多かった。「暖かい地方」についての学習では、資料集の写真をコピーし、ノートに貼って、それにコメントを書くことでまとめるように促したが、どこに何をかいてよいか、迷っていた。できあがったものを見ても、懸命さは伺えたが、本人も何を書いたかわからないほどであった。

【4月のノート】

【6月のノート】



本児 「どこに何をかけばいいの？先生？」
教師 「写真に説明を書いてごらんよ。」
本児 「ええ～、無理。」

このような状況であったため、6月の下旬より、五十音入力を使って、ノートを書かせることとした。黒板を写すことのみであったが、順調に写せるようになってきた。

また、連絡帳を見ると、情報が書いていないことが多かった。そこで、最初は、連絡帳をまずしっかり書かせることをねらって、手書き入力によるメモを使うところから始めた。メモを母親

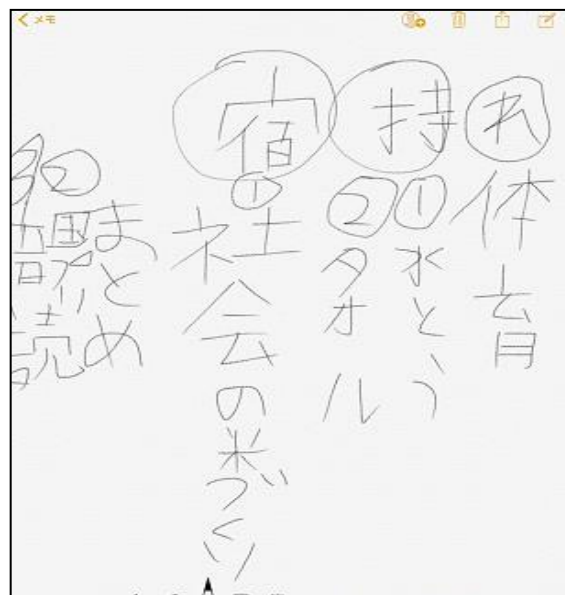
のスマホに送り，本児のノートには印刷したものを貼って対応した。しかし，文字の大きさがなかなかうまくとれないことやノートのページが増えることもあり，7月からは，いつもの連絡帳に戻した。

それでも，2学期になると，ノートテイクに苦戦している様子が見られた。どんな場面かを観察してみると，資料集や教科書の非言語的テキストの読み取りの場面であった。資料集には，さまざまな資料がカラフルに並んでいるため，本児童どこを見てよいか，わからないのであろう。そこで，10月からは，カメラ機能を使い，資料を撮影し，資料集の非言語的テキストの読み取りを行った。写真に自分の考えや気づいたことを記入し，それを手がかりに読み取りを進めたことで，戸惑っている姿は少なくなってきた。

「ふえているところは，ここだあ。赤丸をつければいいよ。」

1月になると，社会では，当たり前のように教室でタブレットを使ってノートテイクを行っている。周りの友達もいつものことだと思っている。黒板を「五十音入力」を使って写しているが，大変スムーズに行っている。黒板を見ながら，同じようにノートを作っている。他の児童より早く仕上がることもある。

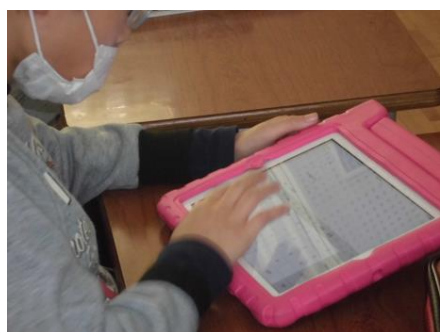
【連絡帳 手書き入力】



【12月 「資料」に手書き入力】



【1月 授業の様子】



1月22日 めあて 森林のはたらきを調べよう。
天然林、、、自然にできたもの
例、白川山地

人工林、、、人の手で植林した。
例、京都、北山杉

教、109
人工林の一生
1
2
3
4

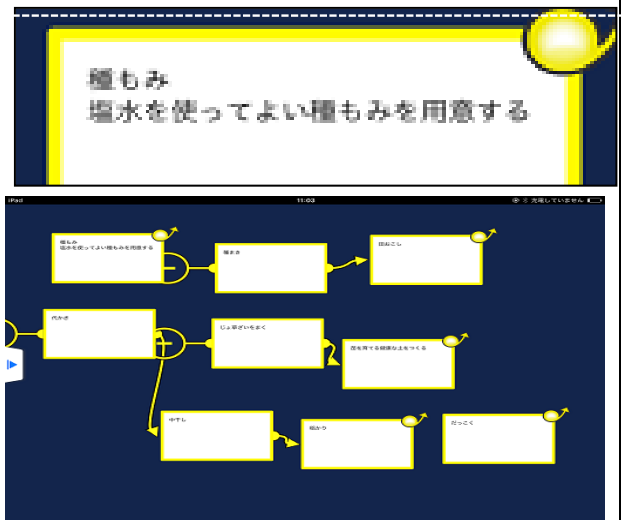


② ロイロノート

9月には、社会の「米作りの様子」について「ロイロノート」を使ってまとめることができた。この入力には、五十音入力を使った。本児にとって、予測変換機能があることが、非常によかったようだ。また、季節ごとに作業の様子をまとめ、それを「ロイロノート」の矢印でつなげていくことで、間違いが少なくなり、やりやすかったようだ。

また、1月の社会の「情報番組を作ろう」では、ニュースキャスター役として、「ロイロノート」を使って原稿を作ることができた。言いたいことを、まず書き、それを矢印で何度もつなげ直すことは、ノートなどで発表原稿を作成するより、格段に負担が少なく、やりやすかったようだ。「ノートでは何度も何度も消したり、書いたりするうちにわかんなくなっちゃうし」という言葉が、本児の本音である。

【ロイロノートで作ったまとめ】



【ニュース番組のキャスターとして】



【報告者の気づきとエビデンス】

(1) 報告者の主観的気づき

- ◆ 家庭学習のやり方を身に付けさせたことで、授業に意欲的に参加するようになったのではないかな。
- ◆ 授業の内容を補う方法を身につけさせたことで、授業に意欲的に参加するようになったのではないかな。
- ◆ 書きの苦手さを補う方法を試したことで、ノートテイクの負担が軽減したのではないかな。

(2) 主観的気づきに関するエビデンス

◆ 国語（漢字）の授業から

「小5漢字ドリル」を学級で行う漢字学習の時にも取り入れて行ってきた。学級全員が楽しんで行うことができているように感じている。当番制で行っており、本児も授業には楽しそうに参加していた。漢字テストのやり方を工夫したこともあるが、2学期後半は、平均点が少し上がった。

あかねこ 漢字スキル5年2学期 テスト結果									
テスト番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
問題数	10	10	10	5	5	5	5	5	5
点数	3	3	4	3	3	3	4	4	4

テスト番号	7	8	9	10
問題数	5	5	5	5
点数	4	4	4	5

また、家庭学習での取り組みは、毎日の記録からもわかるように、積極的に行うようになっていく。

【家庭学習の振り返りシート】

月/日	課題	読書	自主学習
8月1日	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/5	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/6	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/8	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/9	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/10	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/11	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/12	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/13	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/14	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/15	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/16	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/17	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/18	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/19	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/20	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/21	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/22	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/23	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/24	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/25	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/26	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/27	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/28	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/29	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/30	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/31	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他

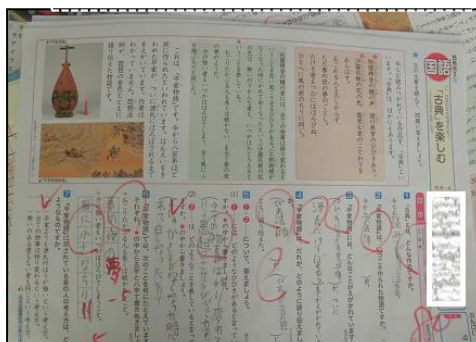
月/日	課題	読書	自主学習
8月1日	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/5	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/6	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/8	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/9	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/10	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/11	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/12	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/13	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/14	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/15	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/16	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/17	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/18	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/19	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/20	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/21	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/22	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/23	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/24	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/25	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/26	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/27	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/28	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/29	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/30	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他
8/31	○	○	国語・算数・理科・社会・英語・その他

◆ 社会や国語の授業から

社会の授業では「輪中」などを調べた。教科書だけでは理解が進まず、イメージもしづらいようだった。そのため、画像検索を使って学習を進めることで理解が進み、学級全体でも視聴した。そのためテストでも平均点以上を取るようになった。

国語の授業では、「琵琶」や「琵琶法師」について検索をした。どんなものか、理解でき、テストでも80点をとることができた。

【社会と国語のテスト】

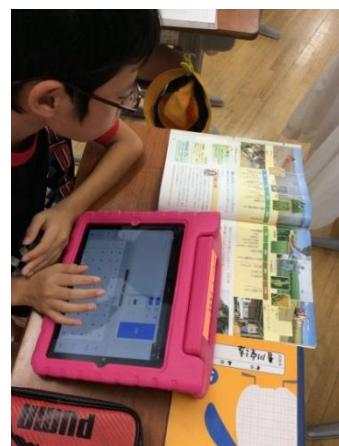
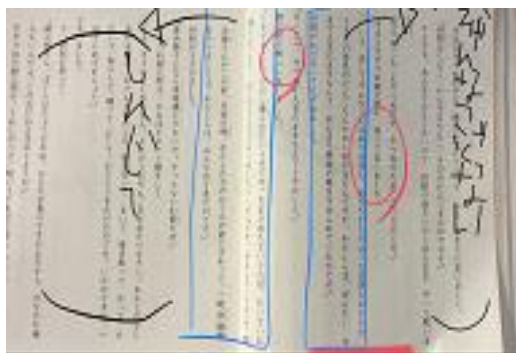


◆ ノートテイクの様子から

ノートテイクでは、特に社会科の授業で苦戦していた。そのため、2学期は「カメラ」機能を使い資料を撮影し、資料の読み取りを行った。写真にポイントを記入し、それを手がかりに行ったことで読み取りができるようになった。

国語の「雪わたり」では、社会同様、カメラ機能を使い、文章の記述からわかる登場人物の気持ちを画像に書き込ませた。長い教材文であったが、気持ちを書き込むことができ、理解が進んだようだった。授業中に、「社会科と国語のノートはタブレットにたのむんだ。苦手だけど。これならなんとか、できるし。」と友達と話していたことから、本児にとって、タブレットがノートテイクの手助けとなっていることがわかる。

【ノートテイクの様子】



◆ テスト結果の比較から

テスト集計ソフト（てんまる）による、国語、算数、社会のテストの結果を観点別に比較した。そうしたところ、本児の達成率を示すレーダーチャートの面積が、増加してきたことがわかる。特に、社会ではすべてにおいて、国語では「話す・聞く能力」「読む能力」において、顕著であった。2学期のテスト返却時に、となりの友達に、「テストは楽しみになったんだ。国語と社会はね。」と言ったほどである。

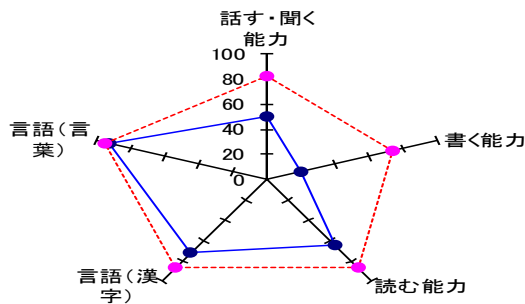
本校では、毎学期末に、国語と算数において教師自作の学力コンテストを行っている。1学期は、国語74点、算数71点であったが、2学期は、国語74点、算数90点であった。この結果返却の際に、一度机に戻った後、本児はわざわざ黒板の前に来て、友達の前でVサインするほど、うれしかったようだ。

【てんまるによる観点別個人診断票】

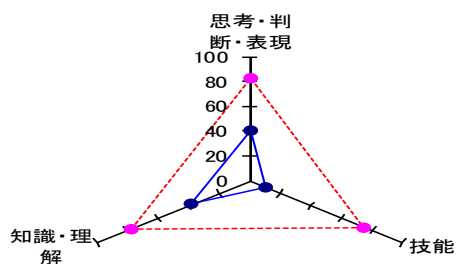
観点別個人診断票＜1学期用＞

点線は学級平均到達率、実線は児童の到達率

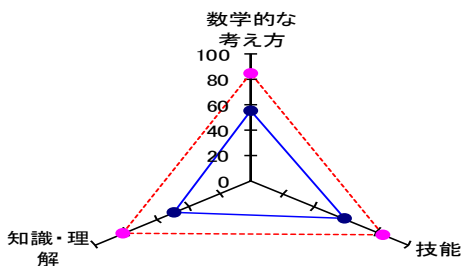
国 語



社 会



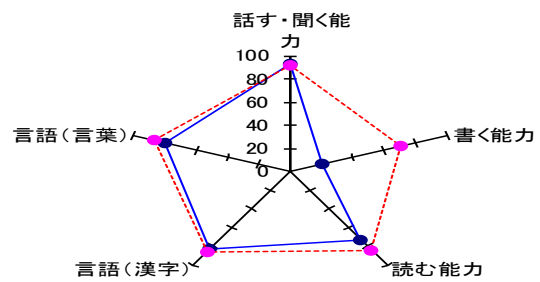
算 数



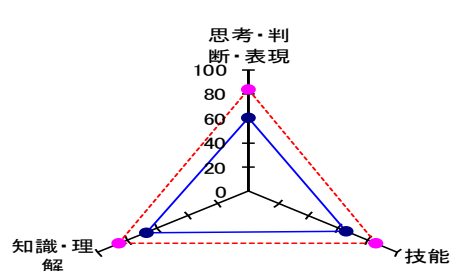
観点別個人診断票＜2学期用＞

点線は学級平均到達率、実線は児童の到達率

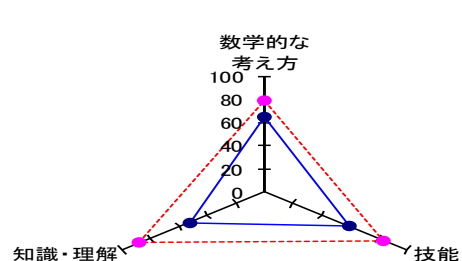
国 語



社 会

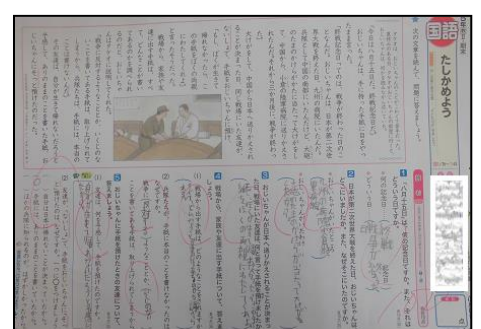
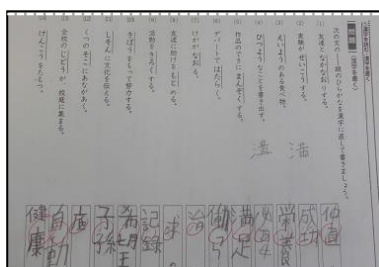


算 数



2学期は、本児童にとって、勉強をすれば、点数がとれるということが実感できたようだ。「テスト楽しみになったんだ。国語と社会はね。」と話したことを、保護者から12月の学級懇談で聞いた。また、1月下旬の学力テストにむけたフォローアップシートでは、苦手な漢字をていねいに書くことができていた。

【3学期のテストの様子】



【今後にむけて】

① 本児の「書きの負担軽減」

- ・高学年での板書量を考えると、本学級だけでなく、毎時間のノートテイクについて、キーボードの活用を強く押し進める。
- ・今年度の取り組みを参考に、より効果的な指導・支援を継続する。

② 本校職員の「校内研修の充実」

全職員の「読み書き障害」への理解と共通支援を、徹底的に研修していく。